



目の相談室より No.14

井上眼科病院グループでは毎年4月の新人研修の中で、社会人としてのマナーや接客研修などとともにロービジョン体験研修を行っています。この研修はロービジョン(視覚障害)の見え方を理解し適切な誘導法を学ぶことを目的としており、診療部門に配属された職員だけでなく、直接患者さまに接する機会の少ない事務系の職員も対象に実施しています。

このロービジョン体験には、見えにくさや視野狭窄を疑似体験することができる「ロービジョン体験用ゴーグル」を使用します。研修では写真のように「ゴーグルをつけた者」と「誘導役」に分かれ、院内での歩行や階段の昇降、当院の診療申

込書に文字を書く、携帯電話でメールを打つなどを行いました。新入職員たちはこの体験を通して、眼科を受診される患者さまの見えにくさの不自由さや不安感を実感し、適切な誘導法の大切さを理解できたのではないかと思います。新入職員だけでなく、私たち井上眼科病院グループ職員一同、患者さまの見えにくい不自由さを理解し、患者さまの安全・安心につながるような適切な誘導を心掛けていきたいと考えています。

目の相談室ではロービジョン患者さまのご家族に対してもロービジョン体験研修を行っています(予約制)。ご希望の方は職員までお申し出ください。



入局医師の紹介



せとがわ あきら
瀬戸川 章 医師
歳だけはとっていますが、井上眼科病院1年生として精進してゆきたいと考えています。よろしくお願ひ致します。



はやし けんせん
林 殿宣 医師
専門分野はまだ決めておりませんが、幅広い分野に対応できるよう勉強しております。御指導の程どうぞ宜しくお願い致します。



まき ちさと
槇 千里 医師
研修1年目です。出身は福岡県です。幅広く学んでいきたいと思っております。いろいろ不慣れなこともあり、ご迷惑おかけするとは思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

オススメ!

近視矯正手術 (LASIK) 説明会

LASIKに関心をお持ちの方、実際に検査・診察を受ける前に説明を聞いてみたいとお願ひの方は、お気軽にご参加ください。ご希望の方はお電話でお申し込みください。

フリーダイヤル 0120-48-4930

■日時：平成23年7月12・26日 / 8月9日 / 9月13日
18:30より1時間程度
■場所：井上眼科病院1階 ■費用：無料

新刊書籍のご案内



「健康は〈眼〉にきけ - 名医が教える眼と心のSOS-」

井上眼科病院 院長・心療眼科医 若倉雅登(著) 2011年4月20日 春秋社刊 定価1,785円(税込)

その不調には、ワケがある近視、老眼、眼精疲労から、うつやストレスによる眼の異常まで。驚くべき眼とメンタルの関係を、心療眼科医が徹底伝授。これが、健康の新常識だ。

- 第1章 驚くべき眼の秘密(眼は誤解されている;知っているようで知らない眼のしくみ ほか)
 - 第2章 眼は変化する-誕生から老いに向かうまで(視覚の成長と心の発達;近視の多くはなぜ子供の時にはじまるのか ほか)
 - 第3章 現代人と眼の不調(現代病としてのトラブル;眼精疲労は、単なる「眼の疲れ」ではない ほか)
 - 第4章 本当の原因は?見落とされがちな病気(サリン中毒の患者さんが教えてくれたこと;眼瞼けいれん ほか)
 - 第5章 病気がわかった時、あなたは...?(治療の意味とは;「従病」のすすめ ほか)
- 【心療眼科とは】精神や体のコンディション、社会的な要因を考慮しつつ、治療をおこなう眼科医学。



我慢の夏

私達が経験したことのない東日本大震災から迎える初めての夏。どんな夏を向え乗り越えて行くのか誰も不安に思っているはず。それは我慢の夏と云っていいでしょう。夏が過ぎれば秋冬、そして春。これから来るであろう豊かな季節に向っての我慢の夏です。節電、復興への経済活性化、一刻も早く取りもどしたい故郷そして日本。それは来たるべき栄光へ向っての我慢の夏と云うことだと思います。

日頃、私達が診療していますと会いたい患者さんと会いたくない患者さんがいます。手術が成功したり、難しい疾患が治った患者さんの笑顔に会うのは心が弾みます。一方で手術をしてもなかなか治りの良くない患者

さん、治療すれども、すれども良くなり、私達医療人の能力の限界を思い知らされる疾患、そんな患者さんを目の前にすると、心の奥で会いたくないと云う気持ちが芽ばえます。折れそうになります。そして、そのことを知り過ぎるが故に悩んだ心は我慢に向います。これからは病気に向って患者さんとより心をつなげて戦って行こう。会いたいと思う患者さんにしようと心に決めます。

いつでしたか、新聞のコラムかと思ひます。「夏炬冬扇」この言葉の意味を答えなさいと云う試験問題があったそうです。当然、答えは「役にたかないもの」と云うことです。ところがある女子学生は「我慢くらべ」と答えたそうです。私は感性豊かな人の答え

西葛西・井上眼科病院 院長 宮永 嘉隆

だと感心します。確かに今は我慢くらべと考えた方がよいのではと思うこの頃です。今年、井上眼科病院は130周年を迎えました。そして、その年に我々に与えられた大きな試練の震災です。日本にとっても井上眼科病院にとっても、さらなる発展への大きな節目の年と思ひます。信頼される病院を目指して職員一同頑張りたいと思ひています。病院にとっても日本にとっても今年の夏は、「我慢の夏」と位置づけたいと思ひています。

市民公開講座

2011年4月23日(土) 14:00～16:30
於ベルサール秋葉原

井上眼科病院の創立130周年記念行事のスタートとして、市民公開講座を開催しました。

企画した当初は400名程度収容できる会場でご案内していましたが、来場のご希望者が多く、急遽会場を変更しました。当日は、嵐のような雨風の激しい天候にも拘わらず約730名の方々にご来場いただきました。

市民公開講座は、昨年4月に井上眼科病院グループ6施設の医師17名による「これで解決!眼のトラブル相談室」という本を出版しましたが、その中から、気になる眼の疾患を5つ取り上げました。この本を読めば、今抱えている眼のトラブルや悩みの解決に一歩近づけると思います。が、眼の不自由な方は、本を読むのも大変と思われ、今回実際に本を執筆した医師による講演の開催となりました。



第一部:眼の3大疾患

第一部は、副院長の岡山良子医師が司会を務めました。まず震災被災者の方々へ黙祷の後、当院の130年の変遷をまとめたDVDを視聴いただき、講演が始まりました。

●第一席:「もうこわくない緑内障」井上賢治

緑内障の専門家である井上理事長が、緑内障は現在、失明原因の第一位となっているという恐ろしい実態を報告しました。しかし緑内障は、早期発見、早期治療により失明の危険性が回避されることも多いことや、日頃の眼科受診の重要性を説きました。



井上 賢治 医師

●第二席:「誰でもかかる白内障」徳田芳浩

徳田副院長は白内障手術の第一人者で、ユーモアもたっぴりに白内障の病理についてと実際の白内障手術の映像を交え、治療の最前線について報告しました。さらに近年注目されているマルチフォーカル多焦点眼内レンズについても言及しました。



徳田 芳浩 医師

●第三席:「ゆがんで見える黄斑変性症」齋木裕

齋木医師は西葛西・井上眼科病院の副院長で現在はお茶の水でも診療しており、黄斑変性症を専門にしています。黄斑変性症は、アメリカでは失明原因の第一位で、日本でも急増している疾患です。最近では、注射による治療もおこなわれていますが、一番大切なのは早期発見、早期治療であると説きました。



齋木 裕 医師

第二部:眼をいつまでも快適に

第二部では、西葛西井上眼科クリニック所長の勝海修医師が司会を務めました。

●第四席:「井上眼科病院でやっともらった病名たち」若倉雅登

若倉院長は、ビートたけしさんの番組などTVにも多く出演する神経眼科の権威です。

15年間色々な病院にかかり原因不明とされ、当院で「眼瞼けいれん」と診断された患者さまや、「眼瞼ミオキミア」など聞きなれない眼疾患などを紹介しました。神経眼科は、患者さまの生活や精神的な面も診ていかないと診断がつかない場合も多く、難しい領域です。



若倉 雅登 医師

●第五席:「アンチエイジングと眼」宮永嘉隆

西葛西・井上眼科病院の宮永院長は、眼とアンチエイジングについて話しました。第一部の三大眼疾患を加齢の面からどうやって防ぐかを解説しました。そして抗加齢で、現在最も有力な二つの説、即ち、カロリー制限が長寿に関係すること、それにはサーチュインと云う酵素が重要であること。一方、酸化ストレスをどのようにして防ぐか、ポリフェノールなど抗酸化酵素の重要性を解説しました。



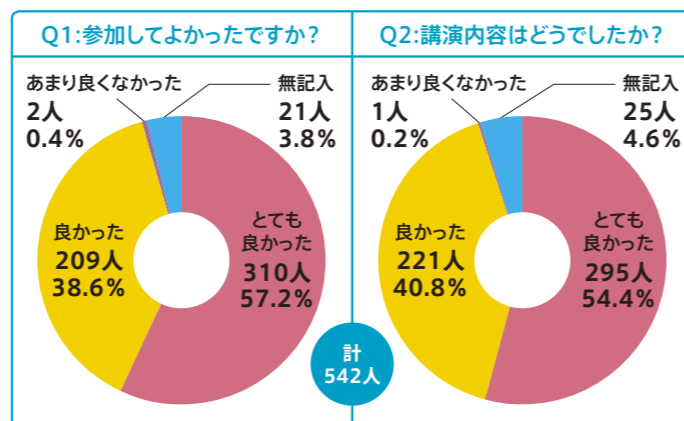
宮永 嘉隆 医師

アンケート結果

閉会后、参加された皆さまにアンケートに回答していただきました。

結果は、回答者数542名の内、約95%の方が「講演に参加して良かった」「講演内容が良かった」と回答されました。また、次回開催のご希望も多く、今回の講演で、皆さまの眼の健康に少しでもお役に立つことができた大変喜んでおります。

また、機会がありましたら、このような講座を開催したいと思っております。



式典・祝賀会

2011年5月22日(日) 12:00～14:00
於帝国ホテル本館2階孔雀東の間

創立130周年を迎えたお祝いと、日頃からお世話になっている皆さまへの感謝の意をこめ、記念祝賀会を開催しました。また、東日本大震災の地域と被災者に哀悼の意と復興の願いを込めたチャリティーイベントでもあります。

来賓、眼科医会、医師会、同門会、同族会、病診連携先、取引先、官公庁、出版関係者などの総勢430名の方々にご臨席いただきました。当日午後からは雨模様となりましたが、お昼までは夏のような日差しで、ご来場の皆さまに気持ちよく会場にお越しいただきました。

司会に松永二三男(元日本テレビアナウンサー)氏をお迎えし、定刻に式が開会しました。

式次第

- 司会者より震災見舞い
- 司会者より開会の辞
- 創立130周年DVDの上映
- 理事長あいさつ 井上眼科病院 理事長 井上賢治
- 主賓あいさつ
 - 千代田区 区長 石川雅己 様
 - 東京大学医学部眼科学教室 教授 天野史郎 様
 - 和紙デザイナー 株式会社堀木エリ子&アソシエイツ 代表取締役 堀木エリ子 様
- 院長あいさつ 井上眼科病院 院長 若倉雅登
- 来賓のご紹介(以下14名、順不同敬称略)
 - 【高野繁、濱崎陸、向野和雄、堀貞夫、坪田一男、大塩夫、黒川雄二、新井一、伊藤享子、古屋文明、横山邦男、正殿博章、黒川明、田中英成】
- 乾杯 同族会代表 井上真 様
- 祝電紹介
- 東日本大震災 井上眼科病院災害支援チームより決意表明 代表あいさつ 井上眼科病院 医師 森山涼
- 中締め 西葛西・井上眼科病院 院長 宮永嘉隆

会場の入り口通路には、井上眼科病院130年の歩みを辿った年表パネルとゆかりの品々が展示され、会場内には和紙デザイナー堀木エリ子氏による130周年記念モニュメント(井上眼科病院ならびにお茶の水・井上眼科クリニック受付に設置)のパネルが展示され、ご来場の方々は足をとめご覧になっていました。

東日本大震災のチャリティーイベントに関連して、宮城県産の銘酒浦霞で乾杯し、ご当地メニューも振る舞いました。

式の中盤では、井上眼科病院災害支援チームが壇上にて出発への決意表明を行いました。祝賀会の翌日、5月23日には宮城県大島へ向け出発し、5月27日に帰京しました。少しでも被災者の方々のお力添えになれるよう、震災後病院をあげて計画してきた活動です。現地での活動内容は「井上眼科だより特別号」で報告いたします。



年表パネルとゆかりの品々の展示



井上眼科病院災害支援チームの決意表明



石川 雅己 氏 天野 史郎 氏 堀木 エリ子 氏 松永 二三男 氏



来賓ならびに理事長、両院長